

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 「高い志」と「夢」をもち、様々な分野でグローバル社会において活躍する人材を育成する学校
- 1 探究心を育成し高い学力をつけるカリキュラムを基盤とした学習指導に取り組む学校
 - 2 異文化の多様性の理解などの人権感覚と英語力を基盤とした国際感覚の育成に取り組む学校
 - 3 生徒の自主的かつ協働的活動を促す行事や部活動を通じて、リーダーとしての資質の育成に取り組む学校
 - 4 地域でのボランティア活動や地域の自治体・学校等と連携した探究学習等を通じて、社会に貢献する自律した人材育成に取り組む学校
 - 5 生徒の進路希望が実現できるようキャリア教育を通じてチャレンジ精神の涵養に取り組む学校

2 中期的目標

- 1 進路を切り拓く学力の育成
 - (1) 生徒の学習を支援するプログラムを実施し、自学自習を促進し、校内外での学習習慣を確立させる。
 - ア 1、2年生全員を対象に学習支援プログラムを行い、高校での授業及び自学自習に取り組むための態度を身につけさせる。
 - イ 感染症対策及び生徒1人1台端末の導入を踏まえ、ICT機器を活用した授業や講習を実施し、自宅学習等による知識・技能の定着を図る。
 - ウ 各教科の授業において、自分の考えをまとめ発表する機会を充実させ自律的な学習態度を身につけさせる。
 - エ 課題研究において、大学生・大学院生のTA（ティーチングアシスタント）を活用するなどし、きめ細やかな指導を行い、ルーブリック評価で検証し課題研究の質の向上を図り、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。

※ 令和6年度においても、授業におけるICT機器の活用95%以上（R1 76.3%、R2 94.7%、R3 97.7%）、授業において生徒が発表する機会90%以上（R1 85.9%、R2 91.5%、R3 93.4%）、課題研究のルーブリック評価3.5以上の維持（R1 3.6、R2 3.6、R3 3.6）
 - (2) キャリア教育の充実と進路第一志望の実現
 - ア 生徒自身が高い目標を設定し、大学進学や将来に向けてのキャリアへの展望をもち、チャレンジ精神と忍耐力を育む担任団を中心としたサポート体制を確立する。
 - イ 同窓生等を講師とした職業希望別進路講演会を行い、生徒の望ましい職業観育成をめざす。
 - ウ 全員が志望大学のオープンキャンパスに参加し、参加報告書の作成にあたり、京都大学、大阪大学等での研究室見学を促進する。
 - エ 授業はもとより、土曜活用（講習、セミナー）、進路指導の充実により、進路第一志望の実現割合を増加させる。

※ スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）及びグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数100名以上を令和6年度においても目標とする。（R1 106名、R2 96名、R3 103名）
 - 2 グローバルに活躍する人材育成
 - (1) 「志」の育成
 - ア 将来のグローバルリーダーの資質として必要な社会貢献の意識を醸成するための道德教育を、「志」学として、ボランティア活動等の体験的活動を通じて行い、その成果の実践報告書を作成し、道德観や学びに向かう力を育成する。

※ 「志」学の取組みの一つである地域交流事業の参加者（対象2年生）100%実施を令和6年度においても維持していく。（R1 100%、R2（実施せず）、R3 95.0%）

 - イ 人権の大切さを理解し、多様性に対応し行動できる人間性を育てる。
 - (2) 英語によるコミュニケーション力の育成
 - ア 高度な4技能（リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング）の養成に向け、4技能統合型の授業を行い、生徒全体に対してグローバル人材に必要とされる英語運用能力の育成に取り組む。
 - イ 1、2年生の希望者を対象に英語即興型ディベートを取り入れて、英語運用能力を育成する。
 - ウ 1年次の課題研究において、大阪大学等の留学生との英語による交流を実施し、英語運用能力を育成する。

※ CEF R-J B1.2レベル相当以上の生徒を、1年生は10名以上、2年生は15名以上、3年生は85名以上を令和6年度においても維持する。（R3（1年生）10名、（2年生）15名、（3年生）91名）
 - (3) SSH事業（令和2～6年度）の推進とSGHネットワーク参加校（令和3～5年度）としての文系課題研究の推進
 - ア 世界レベルあるいは全国レベルのコンクールで入賞者を出すことができるよう、各種コンテスト等に参加させ、高い志を維持させる。
 - イ 科学リテラシー・プレゼンテーション能力・英語運用能力等の育成するプログラムを土曜セミナーとして実施する。
 - ウ 国内での科学（物理、化学、生物、地学）研修を継続実施するとともに、海外での研修旅行を行い、国際交流を通じて科学的な見方、考え方、表現力等を育む。
 - エ 事業の主題となる「健康・福祉・幸福」に係る課題研究を通じて創造的なプログラムを研究開発する。（SGHネットワーク）
 - オ 豊中市及び能勢分校が有する様々な教育資源を活用し、SSH事業（文理学科理科）・SGHネットワーク（文理学科文科課題研究）の充実をめざす。

※ SSH事業では毎年国への報告が求められるとともに令和4年度の間評価に向けて成果が求められる。
- 3 教員の資質向上と「働き方改革」に向けた取り組み
 - (1) 今年度より開始する学習指導要領に対応できるよう教員の研鑽の機会をもち授業力・評価力向上を図り、豊高版教職スタンダードを活用する。
 - (2) 通常時の教育相談事案に加え、感染症に係る教育相談事案について、SC等との連携を通じて、カウンセリングマインドの醸成を図る。
 - (3) 全校一斉退庁日及びノークラブデーを活用し、教職員一人ひとりの意識改革を推進し、勤務時間管理及び健康管理を徹底させる。

※ 授業アンケートにおける総合平均は令和6年度においても3.2以上をめざす。（R1 3.2、R2 3.29、R3 3.33）

※ 超過勤務時間が年間800時間を超える職員数を令和6年度において0をめざす。（R1 4名、R2 3名、R3 1名）

4 スクールミッションに基づくスクールポリシーの策定と更なる魅力ある学校づくり

- (1) 地域や小中学生にとって豊中高校がさらに身近な存在となり、公立学校として府民からの信頼が得られるようオンライン等を活用した広報活動を充実させる。
 - (2) 入りたい学校、入ってよかった学校であり続けるため、学校評価から得られる課題を教員全体で共有し改善するしくみを構築する。
- ※ 入学者選抜の志願倍率を令和6年度においても1.5以上の維持（R2選抜1.68倍、R3選抜1.53倍、R4年度選抜1.61倍）
- ※ 学校教育自己診断「学校に行くのが楽しい」の項目で令和6年度において90%以上の肯定的回答をめざす。（生徒R1 86.5%、R2 86.5、R3 85.4%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒「豊中高校に入学してよかった」92.5%(+3.0)「学校に行くのが楽しい」87.9%(+2.5)、保護者「子供は充実した高校生活を送っている」92.0%(+2.4)、生徒「学校行事の充実」94.0%(+5.0)など3年ぶりに行事が活発に行えていることを反映している。一方、海外研修等の中止が続いており、3月予定のシンガポールは費用の関係で断念し、ベトナムフィールドワークのみ実施するが、十分とは言えない。今後、コロナが収束しても費用の面でかなり負担があるため、心配している。 ・生徒「学習と部活動を両立している」71.4%(-10.5)コロナが落ち着き、昨年度までに比べ、部活動の時間が増えていることによるものか。また、前年度の生徒回答率が、30%台と低いため、R3年度のデータを見ると、65.5%⇒81.9%⇒71.4%となっている。各学年で細かく分析する必要がある。 ・授業に関して、生徒「授業内容は自分の学習や発達に役立っている」93.4%、「教材や指導方法に工夫が感じられる授業がある」90.9%となっているが、保護者「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている」61.0%(-10.6)と低い。R3年度と比べても(-2.0)と微減である。ただ、「学校での授業内容が子どもの学習や発達に刺激を与えていると感じることがある」88.6%(+7.5)となっているため、自由記述等も踏まえて検証する必要がある。 	<p>【第1回 学校運営協議会】 6月16日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 卒業生の進路状況について <ul style="list-style-type: none"> ・勉強させることも大切だが、将来のことを徹底的に考えさせる学校の取り組みで、劇的に生徒が変わったという例も。生徒が自発的に考えさせる機会を。 (2) 令和4年度 学校経営計画・スクールミッション・ポリシーについて <ul style="list-style-type: none"> ・今のまま進めていけばよい。 ・一般的な力も大事だが、具体的で他のところにはないような特色を持った、豊中高校生ならではの力をつけてあげれば、大学の立場からしてもありがたい。 ・豊高生には、型にはまらない人材になってほしい。そういう人間になるための後押しをしてくれる学校になってほしいし、豊高にはそういうイメージがある。小中高大連携が大切。 ・ミッションの再定義では、学校の存在意義を考えることが大切。豊高の存在意義のひとつはGLHSではないか。その存在意義を踏まえた上で、未来に向けてのミッションを考えていければと思う。今の子どもは、勉強についてどれだけ熱心に、自律的に、活力をもって取り組んでいるのかと思う。そういう子は少なくなっているのでは。没頭して学ぶことが大切だと思うので、そこを踏まえてミッションを考えていただければ。 ・多様な生き方、将来の自分の姿を想像できるキャリア教育が大切。 <p>【第2回 学校運営協議会】 11月17日(木)開催</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 学校経営計画の進捗状況 について <ul style="list-style-type: none"> ・現状、良い成果を上げている学校だと考える。行政の課題として、前例踏襲がうまくいかなくなってきたということがある。これからの時代、課題発見、解決が大切。公務員にも必要になってきているので、豊中高生にもそういった力を。 ・課題研究の中間発表時の評価委員の方々のアドバイスが的確だった。それをどう生かすか。 ・豊中高校は他校との連携などが進んでいるのがすばらしい。それだからこそ働き方改革が大切。先生の心身の健康あつての豊中高校の発展だと思う。教員の負担が減るような協力(大学生の派遣など)ができれば。 (2) スクールミッション・スクールポリシーについて <ul style="list-style-type: none"> (事務局) スクールミッション策定の経緯の説明。豊中高校に関係する多く人から意見を集め、教職員による話し合いも重ねて原案を作成した。どのように集約したかの図も作成した。 (3) 令和5年度 教科書選定について <ul style="list-style-type: none"> ・適切に選んでいただいている。 <p>【第3回 学校運営協議会】 2月10日(金)開催</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 今年度の取組状況の報告 <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動(志学で実施)に積極的に参加している様子をよく見る。小・中学校では、子どもたちがとても喜んでいる。 ・東南アジアへの海外研修はよい。(ベトナム研修を実施) ・生徒に多様な生き方のロールモデルを示していくことが大切。 ・課題研究では、2年生から1年生はうまく引き継げよう工夫を。 (2) 令和5年度学校経営計画・中期目標について <ul style="list-style-type: none"> ・教員のメンタルケアやメンターメンティー研修等の紹介。 ・スクールポリシーの策定について、どれだけ全体化できるかが大切。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 進路を切り	(1) 生徒の学習を支援するプログラムを実施し、自学自習を促進し、校内外での学習習慣を確立させる。	(1) ア 1、2年生全員を対象に、学習方法についての討論や模擬試験の分析、大学での学びについての講演会(阪大講演会)などの学習支援プログラムを行い、高校での授業及び自学自習に取り組むための態度を生徒に身につけさせる。	(1) ア 学習サポートプログラムにおける生徒の満足度90%以上[93.6%]	(1) ア. 生徒の満足度94.3%クラスで勉強方法や自学自習について話し合う機会を持つなども行った(○)

府立豊中高等学校

拓く学力の育成	<p>(2) キャリア教育の充実と進路第一志望の実現</p>	<p>イ 感染症対策を踏まえ、ICT機器やオンラインを活用した授業や講習、自宅学習等を全教科で推進しわかりやすく効果的な課題の提示を通じて、知識・技能の定着を図る。</p> <p>ウ 授業において、自分の考えをまとめ発表する機会を充実させる。</p> <p>エ 生徒の課題研究の充実を図るため、大学生や院生をTA（ティーチングアシスタント）として活用し、ルーブリック評価で検証する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒が目標を持った大学進学をめざし、高い目標に向かってチャレンジ精神を持ちつづけ、粘り強く取り組む姿勢を育み、サポートするとともに、PTAメーリングリストを活用し、保護者への進路情報を定期的に発信するなど、生徒・保護者・学校の進路指導体制の充実を図る。</p> <p>イ 生徒の望ましい職業観育成のために、同窓生等が行う職業希望別進路講演会を実施する。</p> <p>ウ 京都大学、大阪大学・神戸大学・大阪公立大学・関西学院大学等の見学、研究室訪問を行う。</p> <p>エ 授業、土曜講習、進路指導により進路第一志望を実現する。</p>	<p>イ 授業におけるICT機器の活用 95%以上 [97.7%]</p> <p>ウ 学校教育自己診断(生徒用1年生)「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」90%以上。[93.4%]</p> <p>エ SSH評価3.5以上、文科課題研究評価3.5以上[SSH3.7、WWL3.5]</p> <p>(2)</p> <p>ア・京大・阪大・神大の志願者200名以上[225名] ・学校教育自己診断(保護者用)「進路に関する連携の肯定的回答」80%以上[84.3%]</p> <p>イ 学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」90%以上 [92.6%]</p> <p>ウ 参加者100名以上[109名]</p> <p>エ スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)及びグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数100名以上[103名(現・浪合わせて)]</p>	<p>イ. 1人1台端末等ICTの活用80.3%。これは、新たに全校共通の新規の設問「学校はICT機器を効果的に活用している」への肯定的回答。昨年度までは、「生徒自身が活用している」という学校独自の設問であった。今年度は、アンケートや各種申し込み等へのフォーム活用も進んだ。(○)</p> <p>ウ. 90.9%(○)互見授業により、他の教員の効果的なアプローチを学ぶ機会をより充実させたい。</p> <p>エ SSH:3.7 文科:3.6 (○)</p> <p>(2)</p> <p>ア. 京大・阪大・神大の志願者226名(○)進路HRや面談でサポートしてきた。また、各学年進路だよりを発行し、保護者には、PTAメールで資料を添付し、進路HRの内容を提供した。87.0%(◎)</p> <p>イ. 94.3%(◎)今年度は職業進路別講演会を文理選択も踏まえたものにリニューアルした。現在大学生の卒業生にから3年生に対して、大学受験や大学生活について講話。</p> <p>ウ. 参加者175名(◎)生徒への呼びかけを効果的に行った。</p> <p>エ. 106名(○)</p>
---------	--------------------------------	---	---	--

府立豊中高等学校

2 グローバルに活躍する人材育成	<p>(1) 「志」の育成</p> <p>(2) 英語によるコミュニケーション力の育成</p> <p>(3) SSH事業・SGHネットワーク参加校としての事業の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア 地元豊中市や能勢町と連携し、公民館・小中学校・高齢者施設等の取組みや活動に、主として2年生が参加し、体験的活動を行い、自己有用感や社会貢献の志を育てる。</p> <p>イ 感染症やネット上の人権侵害事象等、今日的人権課題を学習し人権感覚を高め行動できるようにする。</p> <p>(2)</p> <p>ア 4技能統合型の英語の授業を行い、ハイレベルの英語コミュニケーション力を育成する。</p> <p>(3)</p> <p>ア 各種コンテストに積極的に参加し、全国レベルのコンテストでの入賞をめざすなど、高い志を維持させる。</p> <p>イ 科学リテラシー・プレゼンテーション能力・英語運用能力等を育成するプログラムを土曜セミナーとして実施する。(SSH事業)</p> <p>ウ 国内外での研修や小・中学生向け実験教室を実施し、科学的な見方、考え方、表現力等を育む。(SSH事業)</p> <p>エ 医療・福祉・幸福に係る課題研究を通じて創造的なプログラムを研究開発する。(文科課題研究)</p> <p>オ 豊中市や能勢分校が有する様々な教育資源を活用し、SSH事業・文科課題研究の充実をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア アンケート(生徒向け)における課題研究に関する活動に肯定的な回答 85%以上[95.0%]</p> <p>イ 学校教育自己診断(生徒用)「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」で肯定的回答 80%以上[80.3%]</p> <p>(2)</p> <p>ア CEF R B1レベル相当以上 1年生10名以上・2年生15名以上・3年生85名以上[1年生10名、2年生15名、3年生91名]</p> <p>(3)</p> <p>ア 全国レベルのコンテスト入賞 [JICA国際協力中学校・高校生エッセイコンテスト 特別学校賞+佳作1件、大教大作文コンクール最優秀賞、大阪サイエンスデー銀賞、SSH生徒研究発表会生徒投票賞、高等学校パラメンタリーディベート連盟杯英語ディベート優秀賞、化学研究発表会奨励賞]</p> <p>イ SSHアンケート「科学に興味関心をもった生徒」90%以上[91.0%]</p> <p>ウ 延べ研修参加生徒300名以上[360名]</p> <p>エ 文科課題研究アンケート「課題研究に興味関心をもった生徒」85%以上[87.2%]</p> <p>オ 豊中市・能勢分校との連携回数20回以上[24回]</p>	<p>(1)</p> <p>ア. 94.2% (◎)</p> <p>イ. 82.5% (◎) 入学式直後にSNS関係講演会、保健だより等での注意喚起を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア. 1年生: 15名 2年生: 28名 3年生: 92名 (◎)</p> <p>(3)</p> <p>ア. 「JICA国際協力作文コンクール」特別学校賞+佳作1件 「日本情報オリンピック」敢闘賞、「情報モラル・セキュリティコンクール2022」優秀賞、「第49回英語弁論大会」優秀賞 (△)</p> <p>イ 92.0% (○) 大工大との連携で土曜セミナーを実施。課題研究でも大工大との連携を開始し、次年度はさらに深めていく。</p> <p>ウ. 413名 (◎) 中学生対象、小学生対象の科学教室を本校で開催、また地域の実験教室でもボランティア。</p> <p>エ. 86.0% (○)</p> <p>オ. 35回 (◎) 豊中市との連携が飛躍的に進んだ。</p>
3 教員の資質向上と「働き方改革」に向けた取り組み	<p>(1) 新学習指導要領に対応できる授業力・評価力の向上</p> <p>(2) SC等との連携を通じたカウンセリングマインドの醸成</p> <p>(3) 教職員一人ひとりの意識改革による勤務時間管理、健康管理の徹底</p>	<p>(1)</p> <p>新学習指導要領に基づく指導法や観点別学習状況の評価について、校内研修や授業公開等を実施する。</p> <p>(2)</p> <p>SC等外部人材の活用、医療機関から得た情報を基に生徒指導・教育相談等の実践的スキルの向上を図る。</p> <p>(3)</p> <p>全校一斉退庁日の周知徹底を図るとともに、管理職による指導・助言等を徹底する。</p>	<p>(1)</p> <p>授業アンケート評価3.2以上[第1回3.33、第2回3.33] 校内研修・授業公開等の機会 3回以上</p> <p>(2)</p> <p>学校教育自己診断(生徒)「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」50%以上。[55.8%]</p> <p>(3)</p> <p>年間800時間以上超過勤務時間を有する教職員0名[1名]</p>	<p>(1)</p> <p>3.33(○)第1回授業アンケート3.34第2回授業アンケート3.32 13回(◎) 授業公開の機会が増えた。</p> <p>(2)</p> <p>55.3%(○) SSWによる教職員研修を実施。</p> <p>(3) 1名(△)コロナが落ち着き、休日の部活動の付き添い時間が増加。</p>

府立豊中高等学校

と 更 な る 魅 力 あ る 学 校 の 策 定 基	(1) スクールミ ッションとそれ に基づくスク ールポリシー 策定のための 校内議論の推 進	(1) ア 学習指導室を中心に、本校の強み・弱みを見える化し、課題の共有と課題解決のための議論を進める。 イ 目の前の生徒たちにどのような資質・能力をつけさせていくべきか、そのために何が必要か、必要でないかを様々な角度から本校の教育活動を精査し、スクールポリシー策定の材料とする。	(1) ア 校内会議の回数 10 回以上 イ 学校教育自己診断(教員用)「学校運営に教職員の意見が反映している」で肯定的回答 60%以上[59.6%]	(1) ア. 校内会議 20 回 (◎) PTA・同窓会・生徒自治会・豊中市にも意見を求めた。 イ. 68.4% (◎)
--	---	--	---	--